

JSAP-KPS Joint Symposium "Japan-Korea Symposium on Photovoltaics"

東工大 山田 明

平成 24 年 3 月 15 日、第 59 回応用物理学会関係連合講演会シンポジウムとして、日韓ジョイント・ワークショップを行った。シンポジウムのテーマは「太陽光発電」とした。

このシンポジウムは、韓国 KAIST の Yong-Hoon Cho 教授ならびに JAIST の徳光教授との共同企画である。応用物理学会(JSAP)および韓国物理学会(KPS)とのジョイント・シンポジウムは、応用物理学会が 2007 年に KPS 会長を春の講演会にご招待したことに端を発する。翌年の 2008 年には、KPS の春の講演会に応物会長が招待され、同時に JSAP-KPS ジョイント・セッションがスピントロニクスをテーマに開催された。2009 年には筑波において、同じくスピントロニクスに関する JSAP-KPS ジョイント・セッションが行われ、Young Pak Lee 韓国物理学会会長が招待講演を行った。そして 2010 年に東北大学の八百教授と東工大の石原教授により、初めての JSAP-KPS ジョイント・シンポジウムが“Physics and application of wide bandgap semiconductors”をテーマに開催された。2011 年には太陽電池をテーマにジョイント・シンポジウムを行ったが、東日本大震災の影響により講演自体は行われず、今回の 2012 年春のシンポジウム企画となった。

太陽電池には Si 太陽電池を始めとして有機太陽電池まで、様々な種類のものがある。今回のシンポジウムにおいては、各国の代表的研究者の交流という観点から特に材料系を指定せず、韓国 4 名、日本 3 名の研究者が招待講演を行った。KAIST の Lim 教授は「フレキシブル a-Si 太陽電池」、Yeungnam 大の Kim 教授は「III-V 系量子ドット太陽電池」、Kyung Hee 大の Yu 教授は「ナノ構造を用いた光のマネージメント」、ソウル国立大の Lee 教授は「有機太陽電池」に関する講演を行った。また、産総研の仁木氏は「Cu(InGa)Se₂ 太陽電池」、埼玉大の八木先生は「量子構造太陽電池」、NIMS の韓氏は「色素増感太陽電池」に関して講演を行った。それぞれ日本と韓国の研究者とが対になり発表を行なっていくという形式でシンポジウムを進行した。会場からも多くの質問があり、シンポジウムとしては大成功ではなかったかと思う。また、日韓の太陽電池研究者同士の親睦を深めることができたと感じている。応用物理学会では、国際化が将来に向けた一つの大きなテーマになっている。このような

シンポジウムを核とした研究者同士の交流も、学会の国際化にとって極めて重要であると改めて認識することができた。当日の集合写真を記念に掲載する。最後に、当日、英語セッションでありながら会場にお越しいただいた応用物理学会会員の皆様に感謝し、シンポジウム報告としたい。

